コラム　寄贈資料紹介ー後藤榮治郎化石コレクションー

2022年6月に、北海道在住の化石愛好家である後藤榮治郎（えいじろう）氏から約180点の化石標本をご寄贈いただきました。後藤氏は、アンモナイト化石の産地として知られる北海道で長年にわたり化石の採集を続けてこられた方で、1995年には夕張市でノドサウルス科恐竜の化石を発見したことで知られています。

ご寄贈いただいたコレクションは主に、北海道に分布する白亜紀の地層から採取されたアンモナイトの化石で構成されています。特筆すべきは、全体の約3割をいわゆる「異常巻アンモナイト」（写真1、2）が占める点です。標本にはいずれも精緻な剖出（クリーニング）作業が施されており、アンモナイトの多様な形を詳しく観察することができます。また、写真の標本のように母岩の一部を残すことで化石の産出状況がわかるようにしたものも多く、同氏の優れた剖出技術をうかがうことができます。展示やセミナーなどを通して、この見事なコレクションの活用を進めていきたいと思います。

生野　賢司（地球科学研究グループ）

写真１　殻がバネのように巻く
「ユーボストリコセラス」の標本

写真２　成長の途中で巻きがほどける
「アイノセラス」の密集標本

トピックス　誰もが利用しやすい博物館を目指しています

ひとはくは、誰もが利用しやすい博物館であることを目指しています。開館10年目（2002年）からは、来館することが容易でない遠方に住む方々にもひょうごの自然・環境・文化の魅力を体験してもらえるよう、展示物を積み込んだ乗用車やトラックで県内各地をまわり、展示やセミナー、地域の自然の共同調査などのアウトリーチ活動に力を注いできました。

また開館20年目（2012年）からは、子どもから大人まで様々な世代が学べる機会の充実化を目指し、これまでなかなか来館いただけなかった未就学児や親子連れにも楽しめる展示や催しを増やすことに取り組んでいます（Kidsサンデーやエコロコプロジェクトなど）。

開館30年目（2022年）には、インクルーシブな博物館を2032年までに実現する方針を掲げました。現在のひとはくは、様々な障がいがある方々や日本語を母語としない方々にとって必ずしも訪れやすい場所とはなっていません。このような状況を解消するとともに、どんな境遇の人でも一緒になって楽しめる・学べるような展示方法や催しの進め方を試行していきます。

橋本　佳延（D＆I タスクフォース）

写真１　ユニバーサルデーでの
さわって楽しめる展示

写真２　誰もが楽しめる展示利用の在り方の工夫
「大きな虫をおなかから見てみよう」

ひとはく通信
ハーモニー No.124
編集・発行　兵庫県立人と自然の博物館
〒669-1546　兵庫県三田市弥生が丘６丁目
TEL：079-559-2001(代表)
FAX：079-559-2007
発行日　2024年３月１日
印　刷　ブリテック印刷株式会社
バックナンバーは
こちらをどうぞ→
05 教Ⓟ 2-004A4

ひとはく通信

ハーモニー

124
Mar. 2024

企画展
共存する小さな渡来者たち
シロツメクサもダンゴムシも海外からやってきた

兵庫県立 人と自然の博物館
Museum of Nature and Human Activities, Hyogo
https://hitohaku.jp